

熊本大学病院 地域医療連携センター 関係機関の皆様へ

令和4年6月発行

地域医療連携センター看護師長 新任のご挨拶

看護師長 上田直美



この度、令和4年4月1日付けで地域医療連携センターに着任いたしました上田直美と申します。前年度までは病棟の看護師長として勤務しておりました。退院調整を依頼する立場から、依頼を受ける立場となり、外来・病棟・地域をつなぐ連携の重要性を実感しております。患者様が安心して入院生活を送り、入院当初から病棟と連携し、患者さんや家族の希望や意向を確認しながら、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるように医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される多職種連携を図っていきたくと考えております。今後ともよろしく願いいたします。

各種相談窓口をご紹介します

各種相談窓口のご紹介



地域医療連携センター

患者さんやご家族からのご相談や地域医療機関の方々への情報提供やご相談の対応を行っています。多職種と連携しながら、患者様のニーズに合った病院、施設、訪問看護ステーション等の情報提供と連絡調整、介護保険や障害者サービス等の社会保障制度のご案内、退院後の生活に向けての準備のお手伝い、在宅療養の仕方や介護の方法についての相談対応などを行っています。また、ハローワークと連携しながら就労支援も行っています。



がん相談支援センター

がん相談支援センターは、院内の患者さんだけでなく、院外の患者さんやご家族、地域の方々もご利用いただけます。治療や病状に関すること、経済面や仕事に関する相談、療養生活に関する不安や悩みなどについて一緒に考え、その人らしい生活や治療選択ができるように支援しています。また外見ケアや就労支援、患者会の支援にも力をいれております。相談内容により、院内の他部門と連携を取りながら対応しています。

がん相談支援センターにお気軽にお問い合わせください。



難病相談支援センター

熊本県難病医療連絡協議会の難病医療相談員が、患者さんやご家族の様々な悩みの相談窓口として、難病治療・在宅療養、助成制度などの相談、患者会や様々の催しや他県の情報などについての情報提供を行っています。毎週火・金曜日 9:00~17:00で対応しております。



患者相談室

患者さんとそのご家族からの受診相談・医療相談、医療安全・感染対策や医療事故に関する相談、カルテ開示に関する相談、医療費の支払い等の経済的問題に関する相談等、様々な相談に対応する窓口です。専任の相談員が、相談内容に応じて、適切な部署や職種と連携を取りながら、公平・公正に問題解決できるよう努めております。



当院の数ある多職種チームの中でも
今回は虐待対応チームをご紹介します



成人虐待対応チームについて



チームリーダー
入江 弘基
(救急部 教授)

熊本大学病院では、チャイルドプロテクションチームという小児虐待に対応する組織をつくり運用が行われています。近年、成人に対する虐待も問題視されるようになっていくことより、令和2年4月より成人虐待対応チーム要綱を作成し、令和3年3月には成人虐待対応フローチャートの改訂を行いました。小児虐待と同様に成人虐待(疑い含む)案件に対しても、医師・看護師・臨床心理士・社会福祉士・事務職員での成人虐待対応チームを構成して、対応することとしています。高齢化社会を反映して、身体的虐待、経済的虐待、精神的虐待など多岐にわたることが予想されるので、案件ごとに個別対応を行います。

実質的な活動は、令和3年度より開始となりました。初年度は、当院で加療中の患者さんで3件の相談を受けて、対応を行いました。患者さん自身が相談しにくい事情も配慮し、個別に複数回の面会(他職種での情報収集)を行いながら、患者さんや家族の社会背景を考慮した上で、必要と判断した場合には、行政にも相談を行いながら、解決策を模索しています。

チーム一丸となって、患者さんに寄り添った形での解決策が提示できるように、今後も活動していきたいと思っております。

チャイルドプロテクションチーム(CPT)について



チームリーダー
三淵 浩
(新生児学寄附講座 特任教授)

児童相談所が対応した「児童虐待」はこの10年間で4倍に増加し、若年妊娠や望まない妊娠、経済的困窮や精神的問題などで、出産する前からサポートを必要とする「特定妊婦」は約7倍に増えています。増加の要因とされるのは、認識の広まりも大きいと思われませんが、新型コロナウイルス感染症も関わって、社会のコミュニケーション不足、支援機能の低下により、実数の増加が危惧されています。

そのような状況の中で熊本大学病院では、虐待対応チームCPT(Child protection team)が、実際のケースに対応しています。業務として①被虐待(疑い)児童を担当する医師からの相談への対応(主治医のサポート)、②被虐待児童の状態の把握(虐待の鑑別)、③被虐待児童の家族状況の把握、④被虐待児童およびその家族等への初期対応、⑤児童相談所等への連絡調整(通告と協力)、⑥周産期ハイリスクケースへ(特定妊婦)の対応、⑦その他(院内啓発、勉強会、地域の医療機関、行政との連携、等)を掲げています。大学病院の機能上、被虐待児の救急搬送の対応というより、精神疾患妊婦や養育困難が予想される特定妊婦に多く対応しています。

当院からのお知らせです



平素より入退院支援にご協力を賜り心より御礼申し上げます。
今後とも地域医療連携センターの活動にご支援賜りますよう
宜しく願いいたします。
なお、当院への入院のご相談は病棟(病棟医)へご連絡・ご相談ください。

HIV/AIDSについて少し考えてみませんか?
わたしたちの正しい理解が今、必要です。

皆様の職場、地域における勉強会にHIV診療チームも参加させて下さい。

(内容の紹介)

- ・ HIV/AIDSの基礎知識
- ・ HIV/AIDS感染者への支援
- ・ プライバシーやセクシャリティについて

※HIV診療チームの派遣は無料です



お申し込み・お問い合わせ
熊本大学病院
地域医療連携センター
TEL : 096-373-5701・5934